

NOTE BOOK

Manufactured with best ruled foolscap

Brings easier & cleaner writing

60

山形市の歴史

VOL. —

敬
学
会
賞
第
十
九
回
入
選
作
品

5 年 5 組

柿 沼 弘 明

もくじ

・ 研究したわけ ----- (1)

・ 研究に使った本 ----- (1)

・ 研究の順序 ----- (2)



1 大昔の山形(市) ----- (3)

2 吉野朝時代の山形(市) ----- (5)

3 戦国時代の山形(市) ----- (7)

4 江戸時代の山形(市) ----- (10)

5 明治時代の山形(市) ----- (18)

6 大正、昭和の山形市 ----- (28)

7 明治、大正、昭和の山形市年表 ----- (38)

ま と め ----- (42)

わ かつ た こ と ----- (44)

わ か ら な か っ た こ と ----- (45)

(1)

研究したわけ

・ぼくの家は、山形城址のすぐそばで、

日曜日になると、いつでも遊びに行く。

そのうちに、この城は、いつごろできたのか、

この城にはだれがすんでいたのだろうと思

い、しらべることにした。

研究に使った本

・本

・「山形の歴史」 番号

092
Ka

・「山形県地誌」 番号

091
Na

などを使った。

・てっだってくれた人

・おとうさん—— やりかた、わからない意味

・おかあさん—— わからないかん字など

(2)

研究の順序

まずはじめ、学校図書館や、市内の図書館に

行って、しらべ、だいたい内ようをそろえる。

それから研究にいらるスケッチなどをそろえ

て、ノートに書いてみて、それから清書をす

る。

(3)

1 大昔の山形(市)

弥生式文化時代 西暦 100~200年ごろ

山形の歴史は古く、弥生式文化時代にまでさかのぼる。

。山形市谷柏、その他から、弥生式文化時代のい物が発くつされている。とくに、谷柏からは、石のほうちょうが出土している。

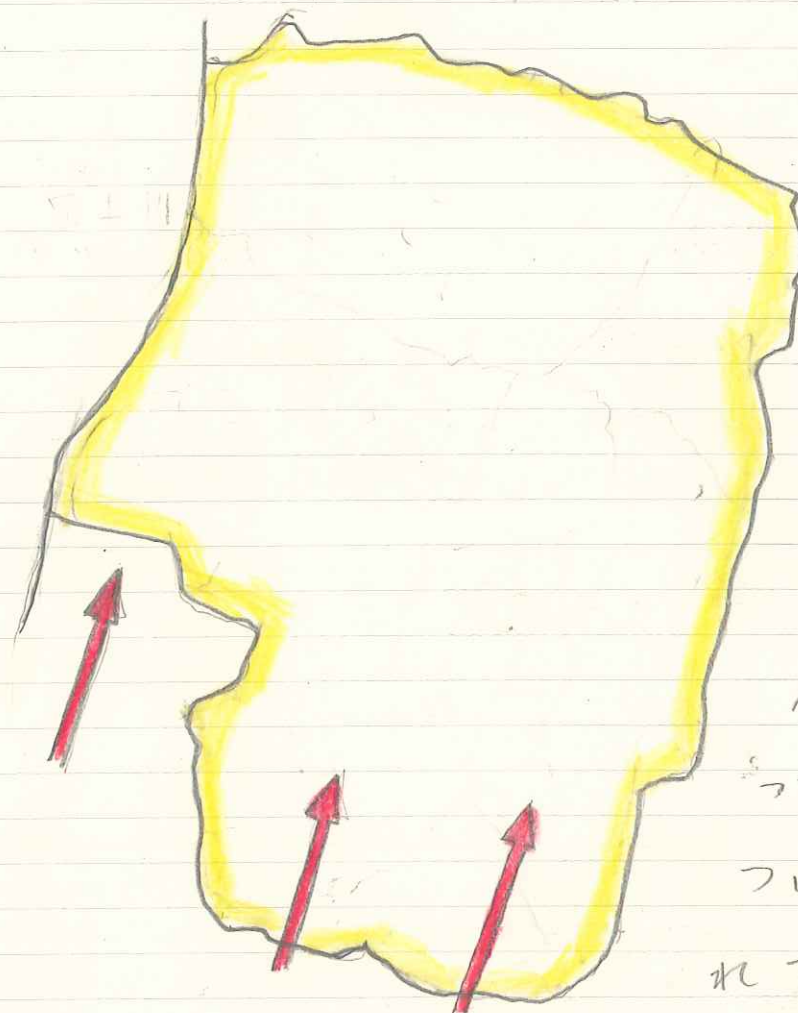
。山形市谷柏土師遺跡から、中期古墳土師文化時代のもみが出土している。



。右の地図は、今の谷柏付近の地図です。

(4)

。山形のそ先は、どこからきたか、



昔、日本は、大陸と陸つづきになっていて、大陸の人間が、日本にやってきた。

そして、北へ北へと、すすんでいって、山形にすみついたものと見られている。

➡ は、山形のそ先が、行った方向

(5)

2 吉野朝時代の山形(市)

吉野朝時代 西暦 1336 年ごろ

- ・山形は、吉野朝時代 出羽国といった。
- ・延文元年(正平十一年) 8月、斯波兼頼が足利尊氏(室町幕府の第一代の将軍)から出羽按察使に任命され、山形に来た。そのよく年兼頼が霞城の地に城を築いた。



今の山
形城(
霞城)。

城の中には、野球場
バレーコート

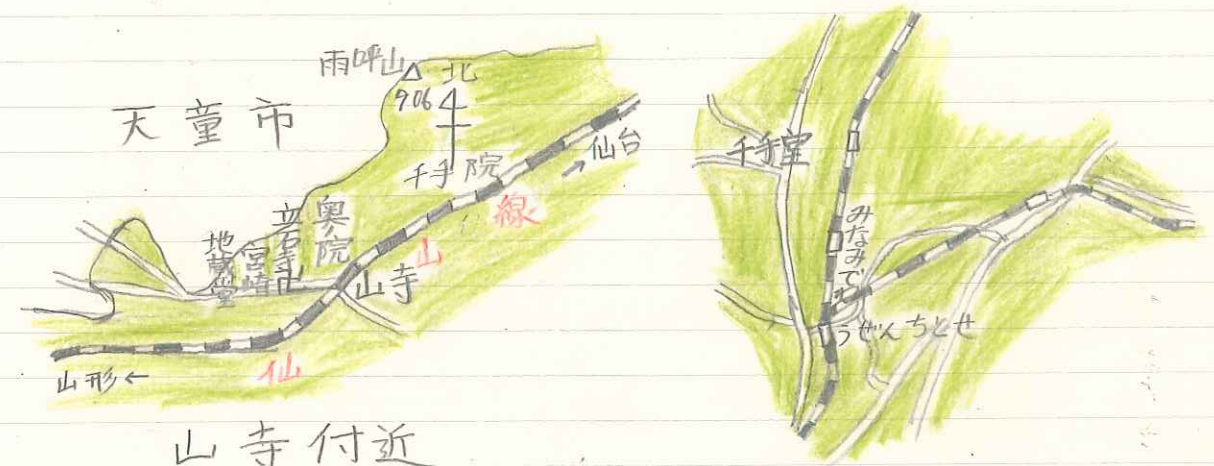
などのしせつ

もできている。

(6)

斯波兼頼は、立石寺、根本中堂、圓應寺、千手堂、八幡神社などを建てたり修理したりした。

- ・斯波義春が、竜門寺を建てた。



山寺付近

- ・むかしの地名をつけている駅の名

むかしの名前をつけた駅の名前が、たくさんある。たとえば、奥羽本線では、「うせんなかやま」「うせんちとせ」「みなみでわ」など、左沢線では「うせんやまべ」「うせんながさき」などです。山形は、江戸時代「うせんの国」といって、江戸時代の前の吉野朝時代には、山形を、でわの国といっていた。

3 戦国時代の山形(市)

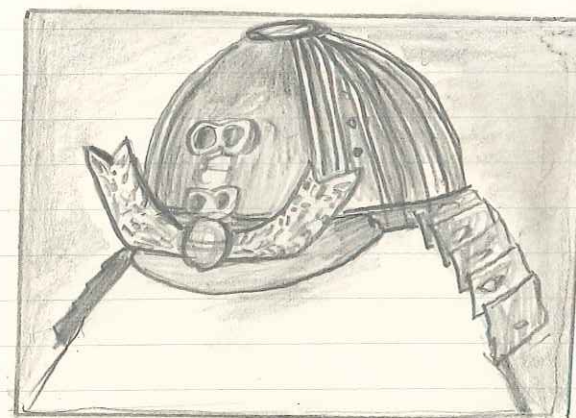
- ・戦国時代、1480ごろ～1580ごろまで、
- ・兼頼の十一代の子孫、最上義光は、天正年間、天童、東根、上ノ山、最などをせめて、勢力をひろめた。
- ・文禄元年(1592年)豊臣秀吉が、ちようせんをせめた時、義光も出し人を命せられ、九州までいった。
- ・山形城の外堀を作り、町のようにす。
- ・今のような形にあらためる大工事を九州から、しきて行なわせたものといわれている。



← 豊臣秀吉

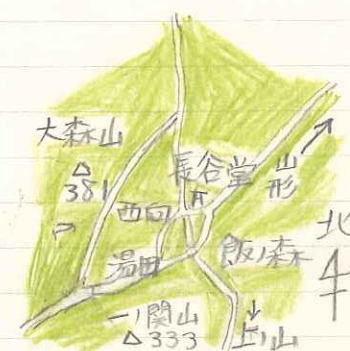
○ 「霞城」の名前のいわれ

義光時代のころ(慶長5年)1600年、上杉氏、家臣、直江山城守が大軍をひきい、山形城を攻めようとしてきたが、富神山から城を見おろしたところ、霞のために見えないので、長谷堂付近で戦っただけで、ひき返してしまった。それいらい、山形城を「霞城」とよぶようになったといわれている。



上、谷長堂戦の時、最上

義光が着用した「かぶ」と



今の長谷堂付近

(9)

。関が原の合戦後、義光は、置賜以外の山形県全体、秋田県の南部をしいする、五十万石たの大名になった。

。三代「義俊時代」かうんがおとろえ、元和八年（1622年）近江国、大森にうつされて、五千石を、あたえられた。

（最上家は、兼頼以来 267年間つづいた。）

(10)

4 江戸時代の山形(市)

江戸時代、1603年～1868年

。徳川時代には、山形(市)を、おさめる大名は、十二回もかわった。したがって、つる岡、米沢、新庄のように藩主を中心にした政治がなされていなかったといわれている。

。山形の城下町は、斯波兼頼時代にできて、次に最上義光時代に整備が行な

われた。山形の城下町は、城を中心にして、そのまわりには武士の家や商人の家がたくさんあったといわれている。

商人の家をわけて、たとえば「(かじ町、桧物町、桶町、銅町など)」で区わけされていた。



←江戸幕府をひ

らいた徳川家康

(11)

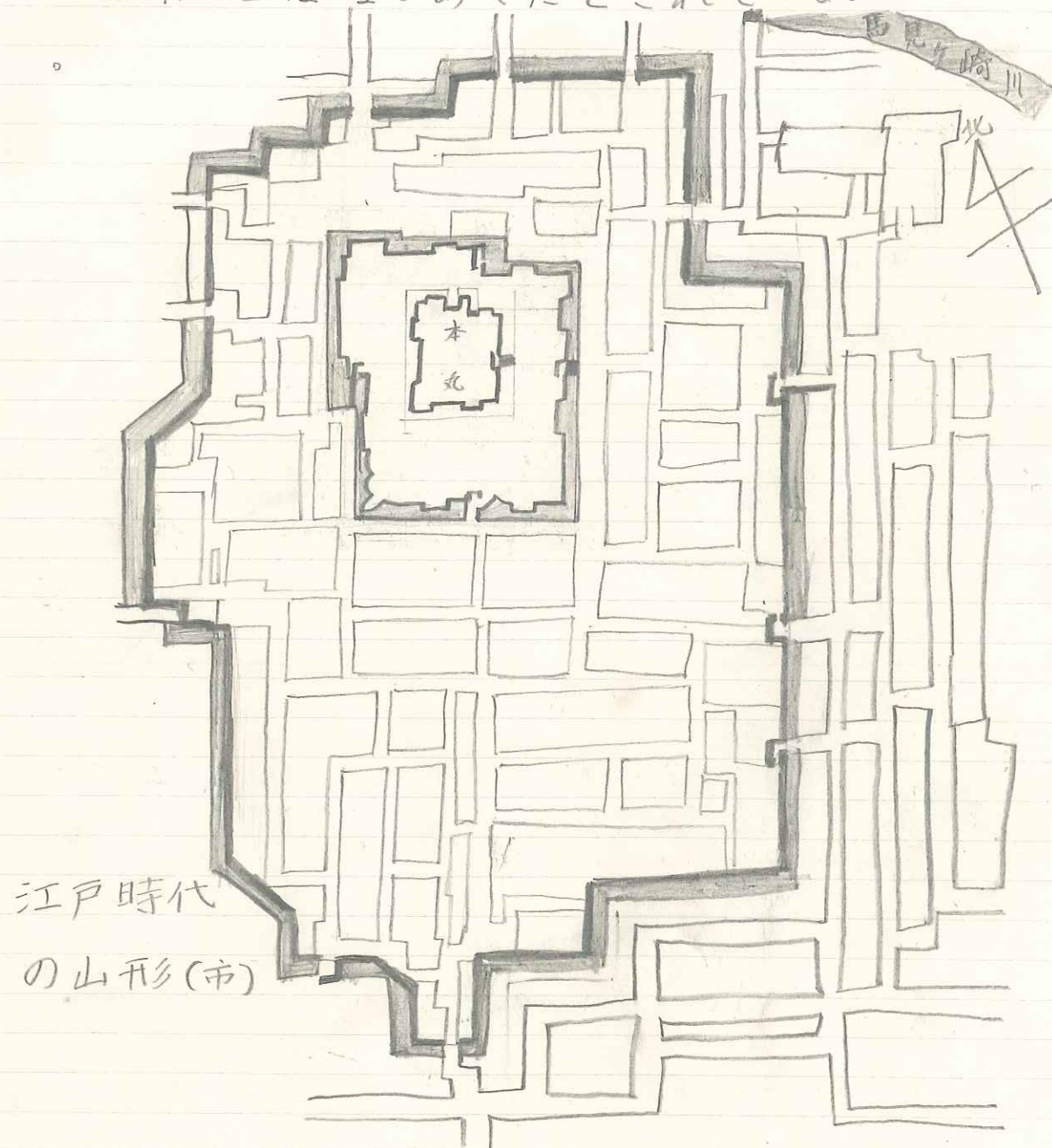
江戸時代、山形をおさめていた大名

1605	名前	おさめていた間
(幕府 がはじ まる)	島居忠政(24万石)	元和8年(1622年)から15 年間。
	保科氏(20万石)	寛永14年(1637年)から8 年間。
	松平直基(15万石)	正保元年(1644年)から5 年間。
	松平忠弘(15万石)	慶安元年(1648年)から21 年間。
	奥平昌能(9万石) 昌章	寛文8年(1668年)から18 年間。
	堀田昌仲(10万石)	貞享2年(1685年)から2 年間。
	松平直矩(10万石)	貞享3年(1686年)から7年 間
江戸時代 (約 二百六十年間)	松平忠雅(10万石)	元禄5年(1692年)から9 年間

(12)

	堀田正虎(10万石)	元禄5年(1700年)から 47年間
	" 正春	
	" 正亮	
	松平乗佑(6万石)	延享3年(1746年)から 19年間。
	幕府直領 (幕府がちよくせつお さめていた)	明和元年(1764年)から 4年間
	秋元涼朝(6万石)	明和4年(1767年)から 79年間
	" 永朝	
	" 久朗	
	" 志朝	
1868 (幕末)	水野忠精(5万石) 忠弘	弘化2年(1845年)から 25年間(明治2年まで)

- 江戸時代になると、検地(土地をしらべる)が行なわれた。鳥居忠政時代、元和、寛永の検地ははじめてだとされている。



。石高

山形ははじめ、最上百万石とよばれたが、元和八年、(1622年)鳥居忠政が城主になってからは、二十四万石になり、それから十五年たつて、保科市が城主になってからは、二十万石になり、最後の城主、水野家になってからは、五万石にすぎなかった。

。近郷からの移住

山城の城下町が、だんだんにぎやかになると、だんだん近郷農村からの移住が多くなってきた。

。山形で使用したおかね。

江戸時代作られたお金の種類とおもさ

慶長一分小判 476 匁

武蔵判 476

乾字金 250

元禄一分金 473

元禄二朱判 473

(15)

享保一分金	476 匁
古文字一分	350
眞字二分	350
文政一分	350
一朱金	600
草字二分	350
古二朱金	350
五両判	180
保子一分	300
正子一分	240
安政二分	300

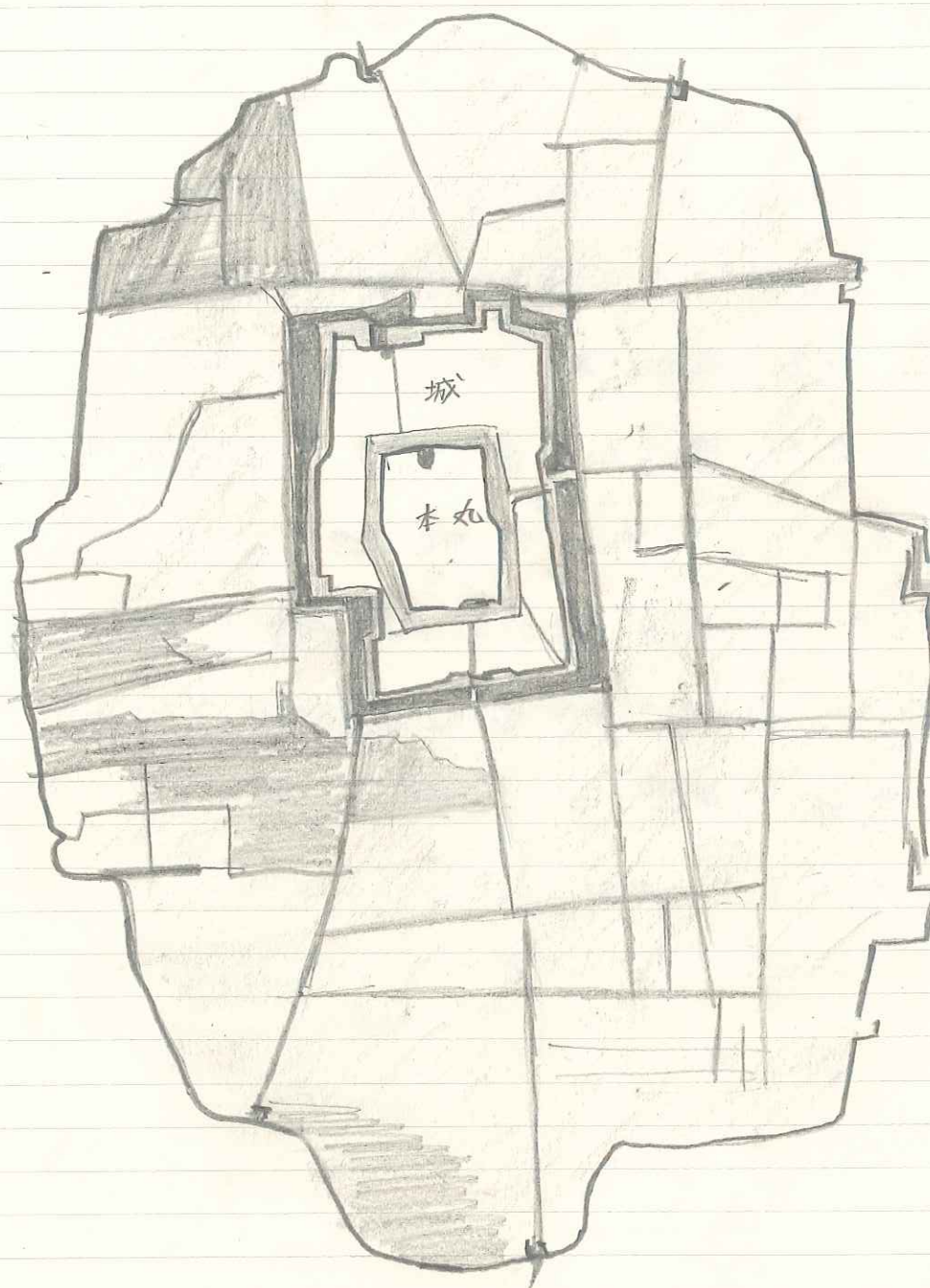
大判では、

慶長大判	44.1
元禄大判	44.1
享保大判	44.1

などが使われていた。

(16)

水野時代の山形(市)



(17)

・桜町の豊烈神社は、藩主水野家の祖先
忠元と、中興の祖忠邦を祭ったものであ
る。

・山形の不作

山形で作物がとれなかった(凶作)年のう
ち宝暦5年(1755年)。天明3年(1783年)
明和9年(1772年)。天保4年(1833年)の
ぎきんは、特にひどかったといわれて
いる。(山形県内でおこった元禄12年
1699年～明治2年1869年の間の不作
または凶作、冷害が21回、旱は「つか」、
19回である。

(18)

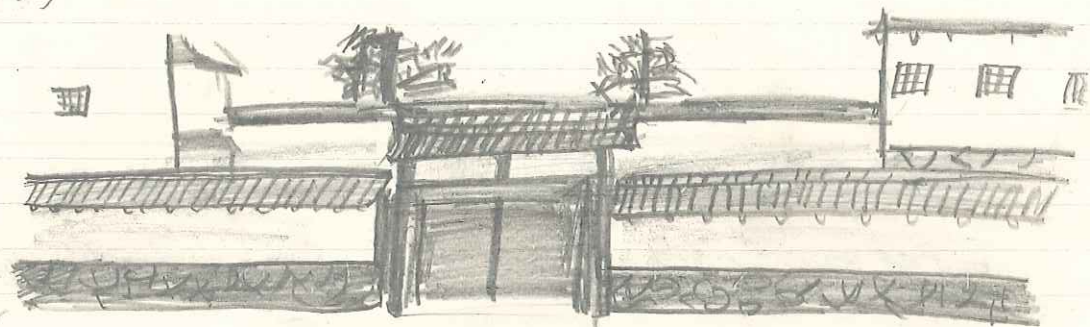
5 明治時代の山形市

・明治時代になると、西洋の文化をとり
いれて、くらしのようすや町のもようすも変
わってきた。

・明治8年(1875年)に山形県ができ
山形(市)に県庁がおかれることになった。
初代の県令(今の県知事)は三島通庸
三島通庸は、薩州藩士三島通純の長男として
鹿児島で生まれた。

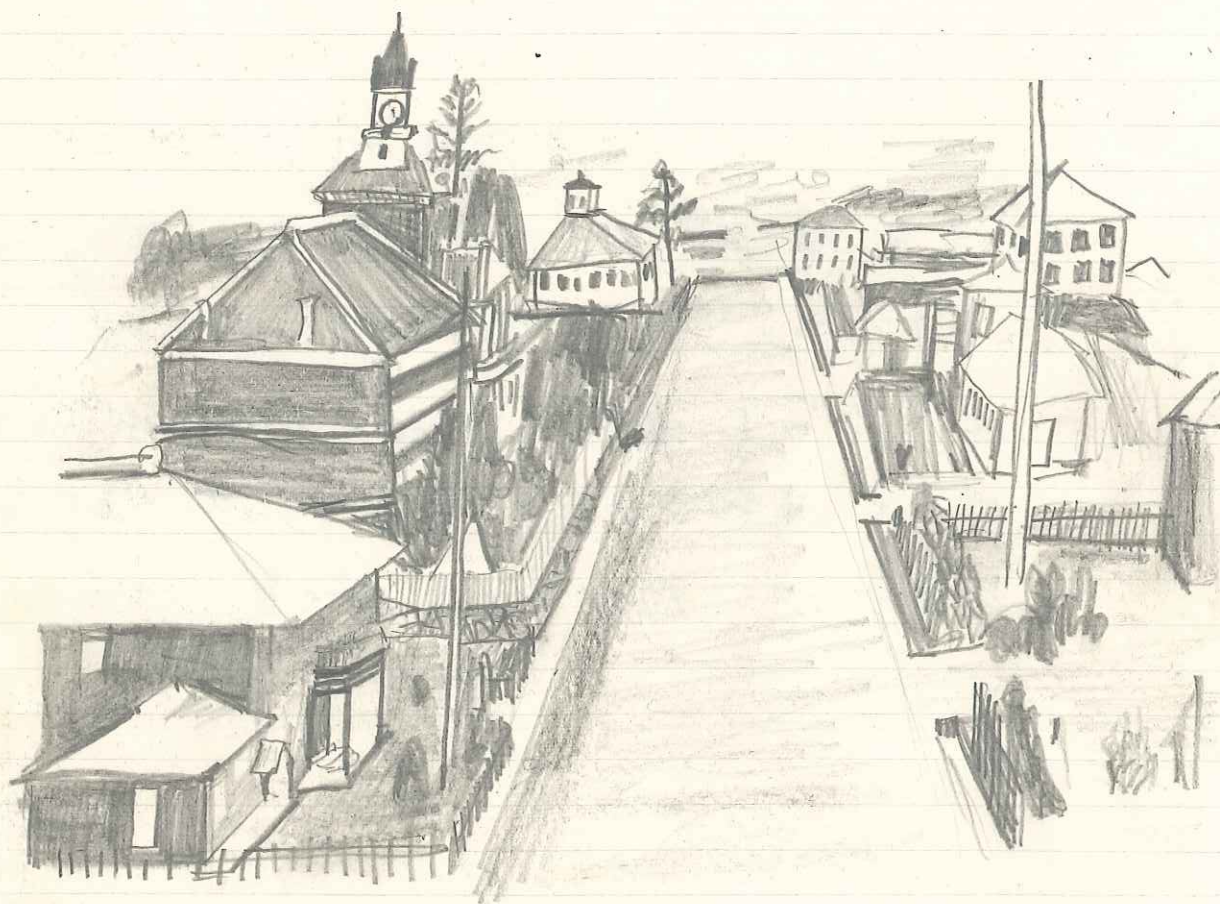
・明治時代になると、山形城は、ただ、
昔を物語る、おもしろいしかなくなってい
しまった。明治時代は、江戸時代
とちがって、藩主を中心にする政治で
はなく、県知や市長を、中心として、ほか
の県とのつながりもふかくなってき
た。

(19)



山形城ニノ丸 大手門 (明治初年)

- 明治時代になると、江戸時代の封建制度とはちがい、犯罪者は裁判へかけた。その裁判所は、明治9年(1876年)山形(市)十日町に建設された。



(20)

- 前のページの下絵
県庁から七日町を望む (明治十三年ごろ)
洋の文化が、もちいられていることがわかる。

・済生館病院の誕生

済生館病院のおこり

明治六年、天童の佐藤伊兵衛が、子とともを病気でなくし、病院を建てることを、けっ心して、親戚にあたる山形(市)十日町の長谷川吉郎治と協議して、明治六年九月に、天童五日町に私立病院を建てた。しかし、器械、薬品などを必要とするので、たくさんのお金がかかった。そこで山形(市)七日町の家をかし受け、移してんした。また県からも、毎月百円ずつのほじよをうけることになり、明治七年一月八日 山形県公立病院として発足した。

(21)

済生館病院
(山形市七日町)



(22)

。済生館病院にきた客

年	館長	入院	外来
明治十四年	(長谷川元良醫局長)	167	1406
明治十五年	(ロレツ教頭)	359	2378
明治十六年	(木脇良館長)	510	3892
明治十七年	(")	510	4854
明治十八年	(")	不明	不明
明治十九年	(")	419	5173
明治二十年	(島居春洋館長)	411	4197
明治二十一年	(私営時代)	312	4214
明治二十二年	(武田坦館長)	170	3478

。左の絵は、山形市(七日町)にある、済生館の建てものです。西洋風の建築で、今は、まわりに、デパートや、商店がたっていて、その中に あるので ひとめでわかる。

・市場の出る日によってきまった町名、

山形市の中には、二日町、三日町、四日町、六日町、七日町、八日町、十日町など、市場の出る日によって、つけられた町名がずいぶんある。

山形の初市

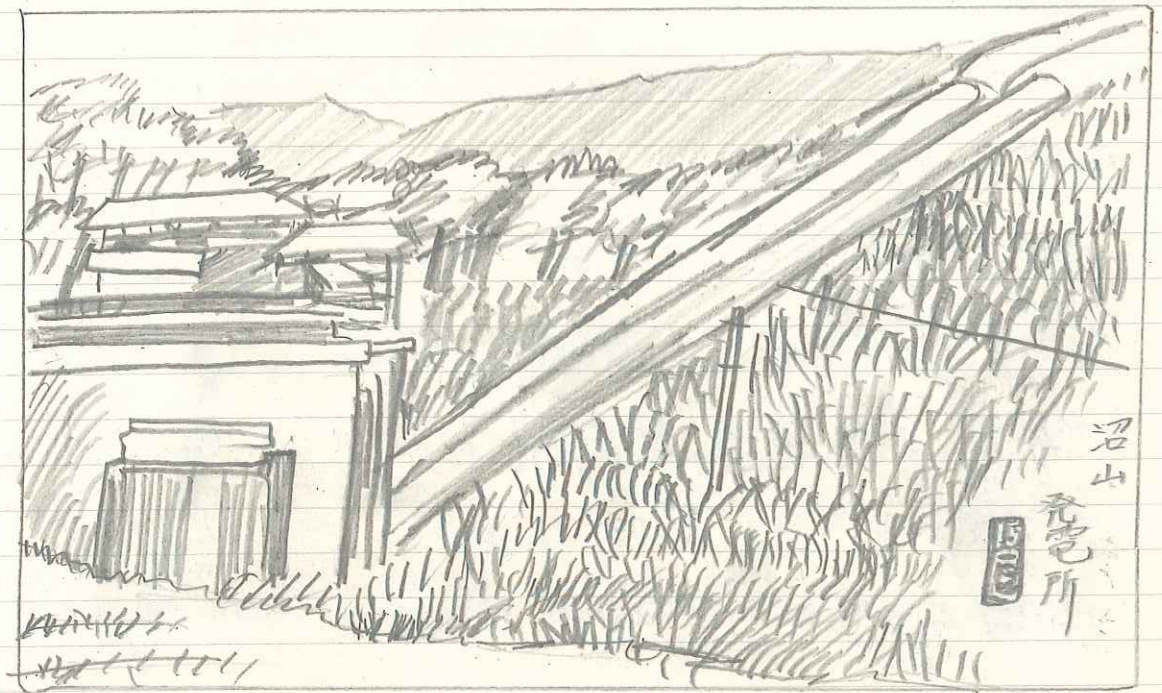


山形の初市は、十日町で行なわれた。

・山形の電化

山形市に始めて、電燈がともったのは、明治33年5月10日である。そのとお時の発電所は、西村山君白岩町にあった。

とう時の 沼山発電所



・交通

日本で1ばん最初に汽車がはしたのは、明治5年、新橋ー横浜間、十八里の間をはしったのが最初である。

山形まで鉄道がひかれたのは、明治33年、奥羽本線が山形をとった。

それとどおいに、山形駅もできた。それによって、山形は、交通の便もよくなった。

(25)

馬見ヶ崎川の水害

馬見ヶ崎川は、水利のためには、なくてはならないが、出水の場合は、大きなひかひをうける。トに使用した。

特に明治十三年八月六日には、堤防千六百六十間を流失、六百間を破損し、水の流れば、三島通り、県庁前を流し、大きなひかひをくわえた。

明治二十七年十二月十六日の出水に堤防十ヶ所百八十六間を流した。

明治三十年 九月の出水には、堤防七十三間

明治三十五年 十月の出水には堤防全部を流した。

明治三十六年 九月二十三日の出水は、宮町堰水門下外五ヶ所の堤防欠潰。

明治四十年 八月二十六日には、堤防十ヶ所欠潰

明治四十二年 四月七日には、七ヶ所の堤防六百三十三間欠潰

明治四十三年 八月十四日には、水十九橋が出水

(26)

公園うらの堤防 三百八十間欠潰

明治四十四年 七月二十七日 圓應寺うら 堤防欠潰



馬見ヶ崎川と、山形市

(27)

。明治天皇の山形行幸

明治天皇の山形に巡幸は明治十四年九月であった。

。人口のうつり変わり、

明治時代になると、他の県との交通も便利になり、したがって人口も多くなり、山形市は、大きな都市になってきた。

明治十年 26,250人

明治三十五年 28,250人

明治四十年 41,500人

(28)

6 大正、昭和の山形市

。大正、昭和の時代になってくると、町のようなも、今と、ほぼ"おなじ"になってきた。

。世の中が、発達するにつれて、教育の方もしんぼしてきた。江戸時代は、寺小屋といって、はいりたい人だけがはいった。今では、たれもが、小学校、中学校にはいらないければならないという法りつがでている。

大正、昭和時代になると、さかん、学校が、たてられるようになった。

明治時代の小学校

八日町 南部小学校

横町 中部小学校

宮町 北部小学校

香澄町 高等小学校（昭和2年8月、

解体して、三小学校に、いっしょ

(29)

に おかれることになった。

明治44年 第四小学校が開校

大正9年4月 山形県立山形工業学校創立

大正10年 第五小学校が開校

昭和2年7月7日、第一小学校校舎落成

(山形県初めての鉄きんこ

ンクリート建物。

建築費用予算 318,007円)

(30)

山形第一小学校校舎



(33)

・山形市町名一覽

下山家	末広町	小姓町
七日町	旅籠町	東原町
小橋町	銅町	肴町
皆川町	五日町	二日町
三日町	材木町	銀町
本町	小白川町	緑町
吹張	大手町	木実町
墨石	南追手前	天狗橋
楯山	元木	八森
神尾	前田	上桜田
成安	下反田	滝平
渋江	中野	若木
妙見寺	中里	大森
高沢	管沢	前明石
片谷地	津金沢	山寺
内表	江俣	志戸田
高湯	上宝沢	関沢

(34)

門伝	沼木	柏倉
蔵王堀田	埋立町	小荷駄町
東原町	六日町	四日町
宮町	歩町	下条町
上町	八日町	鉄砲町
十日町	香澄町	元既
六十里越	桜町	袋留
小立	岩波	土坂
平清水	青田	中桜田
古館	常明寺	芳沢
灰塚	中ノ目	村木沢
釈迦堂	下東山	上東山
切畑	長谷堂	二位田
松原	谷柏	黒沢
陣場	吉野宿	陣場新田
鮎洗	滑川	下宝沢
新山	南館	吉原

船 町 印 役 落 合
 上 山 家 など (昭和時代)

・山形市のがいよう

・面積 381.58平方km

田 5,981ヘクタール

畑 2,923ヘクタール

原野 21,595ヘクタール

・人口 191,668人 (昭和40年7月1日現在)

人口のうつり変わり

元禄 10年, 13,662人

明治 10年 21,250人

明治 25年 28,250人

明治 40年 41,500人

昭和 18年 98,300人

昭和 36年 188,600人

昭和 40年 192,000人

・文化しせつ

小学校 33校 中学校 18校

市立高校 1校 県立高校 7校

私立校 5校 公民館 19

7 明治、大正、昭和の山形市年表

年号	年	西 暦	日 日	山形市の主なできごと
明治	8	1875		山形県ができ、山形(市)に県庁がおかれる。初代の県令(県知事)三島通庸
明治	8	1875	8月15日	山形市八日町から出火 400戸以上も焼ける
明治	9	1876	9月1日	山形新聞がはじめて発刊される。
明治	11	1878		山形師範学校そう設
明治	12	1879	1月	山形市済生館病院完成 (費用は13万円であった)
明治	14	1881	9月	明治天皇山形市においてになる。
明治	22	1889	4月1日	山形市制がひらかれる。
明治	22	1889	7月1日	山形測候所が開設される
明治	27	1894	5月26日	山形市ローソク町から出火 1300戸以上も焼け 死者約20人だった。
明治	29	1896	8月	山形商業鉄行開業

明治30	1897	8月	山形連隊兵舎ができる
明治31	1898	4月	山形市立高等学校開校
明治31	1898	4月	函羽農工銀行横町に開業
明治32	1899	4月28日	山形市百姓町から出火、410戸焼ける
明治33	1900	5月10日	山形電気株式会社開業 山形市にはじめて電灯がともった。
明治34	1901	4月1日	奥羽本線が山形までひかれた。 山形駅が開設される
明治35	1902	9月	山形県女子師範学校創立 山形県高等女学校(今の西校)創立
明治38	1905	4月	山形煙草製造所設置
明治38	1905	9月	山形専売局がおかれる
明治40	1907	12月	第25旅団司令部がおかれる (大正15年廃止)
明治42	1909	5月	山形県立図書館設立
明治44	1911	5月8日	山形市七日町山形新聞社とな りのそばやから出火、県庁、市役所

			さいはしん所、その他、主な建物が焼失した、1335戸焼けた。
明治44	1911	5月24日	山形市十日町から出火、87戸焼ける
明治44	1911	9月	山形ガス会社営業をはじめる
大正2	1913	8月27日	馬見ヶ崎川の大洪水、市内、浸水537戸、流失1戸、堤防けっかい326m
大正3	1914	8月1日	山形市の千歳座、はじめての映画堂設館となる
大正9	1920	4月	山形県立山形紅業学校創立
大正10	1921	3月	左沢線開通(羽前長崎まで) 左沢まで開通したのは大正11年4月) 北山形駅が開設される。
大正10	1921		馬見ヶ崎川の堤防工事がなされた。
大正11	1922	8月	上水道完成する

昭和2	1927	7月7日	山形第一小学校 校舎 落成 山形県初めての鉄きんコンクリートの建て物 (建築費用予算 318,007円)
昭和10	1935	10月	市立実業学校を市立山形紅芸学校と改める
昭和11	1936	8月	山形中学 甲子園球場に初出場
昭和11	1936	11月	NHK山形放送局開設
昭和12	1937	11月10日	仙山線開通

ま と め

- 。山形の歴史は遠く石器時代にまでさかのぼり、先住の民族やわれわれの祖先たちが、住んでいたと見られる
- 。約六百年昔、斯波兼頼が、山形にきて、よく年貢城を築いた。兼頼は、山形にいろいろなてらや神社をたてた。
- 。兼頼の十一代の子孫 最上義光は、天正年間、勢力をひろめた。
三代 義俊時代 かうんがおとろえ、元和八年 近江国・大森にうつされ、五千石をあたえられた。
- 。江戸時代には、山形をおさめる大名は十二回もかわった。したがって、つる田、米沢、新庄のように藩主を中心にした政治がなされていなかった。
- 。明治時代になると、さかんに西洋の文化がとりいられてきた。済生館などは、そのいいれいである。
- 。大正、昭和になるとますます新歩していき、

(43)

山形に、道道や、道路もできて、交通が便利になってきた。

(44)

わかったこと

- 山形の歴史は、弥生式文化時代にまでさかのぼるということ。
- 山形をおさめていた大名のこと。
- その時代の山形のような
- 山形は、城下町として発達してきたこと
- どうして、今のような山形ができたかということ。

(45)

わからなかったこと

- なら時代の山形は、どうなっていたのかわからなかった。
- 吉野朝時代の町の中のことがわからない
- 江戸時代の町の中のようにすが、よくわからなかった。
- 明治時代の西洋文化のことを、もう少ししらべたい。